

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：維持管理計画（１）	
日付：１１月　　１日　（土）曜日、セッション時間：　9:00～10:30	
司会者名（所属）：石倉智樹（国土技術政策総合研究所）	
討 議 内 容	セッション全体： 今後，アセットマネジメントにおける力学モデルの位置づけはどうなるのか．ライフサイクルコストの最小化というアセットマネジメントの目的だけを考えると，力学的なモデルがどうしても必要というわけではない．精度を考えると統計モデルで十分ともいえる． しかし，小市町村など，常時観測データ取得が困難なところでは，現場での判断のために力学的モデルも必要と言える．
	（発表番号 128）発表者名（所属）：宮田将門（名古屋大） 施工猶予の定義は？主なアピール点は，予算制約下での複数橋梁管理ということになるか？ 開発したシステムを実務者に適用してもらうためには，今後どのような発展プロセスがありうるか． ライフサイクルコストの評価に関しては，割引率も考えるべきではないか．
	（発表番号 129）発表者名（所属）：貝戸清之（大阪大） 1 次モデルの特性が強くはたらき，仮定した力学的特性と，観測された劣化パスの真の要因が（仮に）乖離していたとすると，1 次モデル情報は仇になってしまわないか？→ありえることであるが，こうした知見を重ねて，1 次モデルをブラッシュアップすることを目指している． 実際では舗装劣化の情報蓄積が難しいという課題もある．
	（発表番号 130）発表者名（所属）：藤森裕二（京都大） 舗装劣化の不確実性は地盤沈下の状態に依存しているが，独立な複数不確実性がある場合にはどうなるか？ メッシュ毎に補修費用が定義されることは妥当な仮定か？例えば，小間切れにメッシュを補修する場合よりもまとめて補修する方が小費用ということも考えられる．→この点は，今後発展させることを検討している．